

ジーエスワン ジャパン

# GS1 Japan News

一般財団法人 流通システム開発センター

世界標準のGS1標準で、安全・安心、効率的なサプライチェーンを推進します

第5号  
2020年11月

GS1 事業者コード登録更新制度改定について …… P.2 ~ 3

GS1 Japan Data Bank …… P.4 ~ 5

GS1 ヘルスケア国内外活動状況報告 …… P.6

ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドラインを発行… P.7

適格請求書等保存方式（インボイス制度）導入  
流通 BMS 協議会・国税庁 …… P.8

# GS1 事業者コード登録更新制度改定について

## — 開始時期の見直しと登録申請料および更新申請料の改定 —

2019年6月、GS1 Japan（一般財団法人流通システム開発センター）は、2021年5月のGS1事業者コード<sup>(注1)</sup>登録更新制度の改定（以下、制度改定）を発表していたが、新型コロナウイルスの影響により、制度改定の開始時期を2021年8月に変更することとした。また、登録申請料および更新申請料の改定についても併せて発表した。

**(注1) GS1 事業者コード**：GS1（ジーエスワン）とは、国際的な流通システム標準化機関である。GS1 事業者コードは、GTIN<sup>(注2)</sup>やGLN<sup>(注3)</sup>などの国際標準の識別コードを設定する際に必要となる番号。

**(注2) GTIN（ジーティン）**：Global Trade Item Numberの略で、JANコード標準タイプ（GTIN-13）、短縮タイプ（GTIN-8）、集合包装用商品コード（GTIN-14）など、商品・サービスに対して設定するGS1標準の商品識別コードの総称。

**(注3) GLN（ジーエルエヌ）**：Global Location Numberの略で、企業などの事業者自身や当該事業者の事業所や部署などの場所（ロケーション）に対して設定するGS1標準の識別コード。

### GS1 事業者コード登録更新制度改定について

#### (1) GS1 事業者コードの登録更新手続きを3年ごとから1年ごとに変更

変化のスピードがますます早まっている事業活動に対応して、現在3年ごとに実施しているGS1事業者コード登録更新手続きを、GS1各国の情報管理水準に合わせて、1年ごとに変更する。

GS1事業者コードに関わる情報がよりタイムリーに更新されることにより、GS1事業者コードやGTIN

などの正確性や信頼性が高まり、GS1標準の変更にもスピーディーに対応可能になるなど、事業活動の円滑化が期待される。また、登録申請料および更新申請料は、従来の3年払いに加えて、新たに1年払いの選択が可能となり、事業活動に合わせてより柔軟でムダのない登録更新手続きとなる。

#### <適用時期と対象事業者>

- ・有効期限が2021年10月以降の既存の事業者
- ・2021年8月以降、新規にGS1事業者コードの登録を希望する事業者

#### <改定のポイント>

- ① 登録申請料および更新申請料の支払いは、1年払いと3年払いの選択制となる。
- ② 本変更は、GS1事業者コード標準タイプ（9桁、7桁）、短縮タイプ（6桁）に加えて、2021年8月から新設されるGS1事業者コード10桁、およびGTIN-8ワンオフキーの登録更新手続きから適用される。

#### (2) GS1 事業者コードとして貸与する桁数に10桁を追加

これまで当財団では、事業者が必要とする商品アイテム数に応じて、9桁（または一部7桁）のGS1事業者コードを貸与してきたが、2021年8月以降はこれに加えて、10桁のGS1事業者コードの貸与も開始する。

これにより、近年のネット販売の普及などに伴って急増している商品アイテム数が少ない小規模事業者などにおいても、より適切な桁数によるGS1事業者コードの貸与が可能となり、コード資源の有効活用の促進が期待される。

#### <適用時期と対象事業者>

- ・2021年8月以降、新規にGS1事業者コード標準タイプの登録を希望する事業者で、向こう3年間の商品アイテム数の利用予定数が100アイテム以下の事業者

#### <改定のポイント>

- ① 登録後、取り扱いアイテムが増えた事業者は、必要なアイテム数に応じて複数のGS1事業者コードの追加申請が可能である。
- ② 10桁のGS1事業者コードは、1000コード（9桁GS1事業者コード100コード、7桁事業者コード1コードに相当）までは登録更新料の追加はない。
- ③ 10桁のGS1事業者コードは、GTINのみではなく、GLNなどの各種GS1識別コードとしても利用できる。
- ④ 既に9桁または7桁のGS1事業者コードを取得、使用している事業者は、現在使用しているコードをそのまま利用できる。コード体系の変更はない。

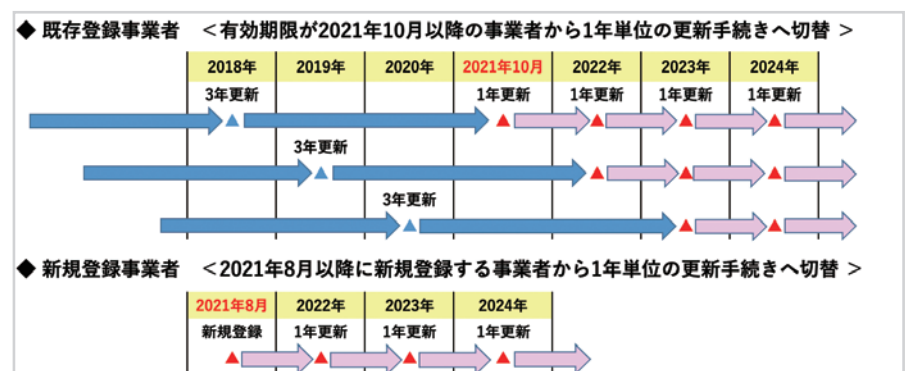


図1 3年更新から1年更新への切替イメージ図

### (3) GS1 事業者コード短縮タイプの貸与ルールの変更

これまで当財団では、一定条件の下、短縮タイプのバーコードの必要性が認められた事業者には、6桁のGS1事業者コードを貸与してきた。

サイズの小さな商品に使用する短縮タイプのバーコード（GTIN-8）については、特にコード資源が限られていることから、2021年8月以降は国際ルールに合わせて1商品アイテムごとに8桁のGTIN-8ワンオフキーを貸与する方式へ変更する。

なお、標準タイプのバーコード（GTIN-13）は、縮小することにより、短縮タイプのバーコード（GTIN-8）とほぼ同程度のサイズに小さくすることが可能である。

今後は可能な限り、GTIN-8に代えてGTIN-13の利用をお願いしたい。

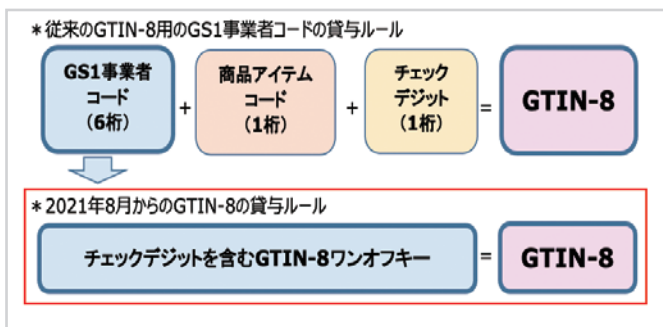


図2 GTIN-8（JANコード短縮タイプ）用のGS1事業者コード貸与ルール

#### <適用時期と対象事業者>

- ・有効期限が2021年10月以降で新制度に切り替わった事業者
- ・2021年8月以降に新規にGS1事業者コードを登録した事業者

#### <改定のポイント>

- ① GTIN-8ワンオフキーを取得するには、GS1事業者コードの貸与を受けている必要がある。
- ② GTIN-8ワンオフキーは、当財団が事前に必要性などの審査を行い、認められた場合に限り取得が可能である。
- ③ GTIN-8ワンオフキーを取得する事業者は、GS1 Japan Data Bankへ商品情報の登録が必要である。
- ④ 既存の6桁のGS1事業者コード短縮タイプを取得、使用している事業者は、現在使用しているコードを

そのまま利用できる。コード体系の変更はない。

### (4) GLN ワンオフキー貸与開始

近年、流通BMSの普及などを背景として、企業識別コードをはじめとするGLNの利用が少しずつ広がっている。しかし、現状では必要なGLNの数が限られる（1、2個程度）ケースも多く、GS1事業者コードを取得していない卸・小売業などの事業者からは、より柔軟なコード貸与制度が求められてきた。

当財団では、こうした少数のGLN利用ニーズに対応して、新たに13桁のGLN（GLNワンオフキー）の貸与を開始する。これにより、GLNに必要な数だけ、（GS1事業者コードよりも）低額の登録申請料で利用することが可能となる。

#### <適用時期と対象事業者>

・ごく少数のGLNに限って利用を希望する事業者に対し、2022年5月以降に貸与を開始予定

#### <改定のポイント>

- ① GLNワンオフキーは、GLN以外のGS1識別コードとして使用することはできない。

- ② 従来のGS1事業者コードの申請か、ワンオフキー単位の申請かは、事業者が申請時に選択できるが、GLNの利用増が見込まれる場合は、GS1事業者コードの申請をお勧めする。

- ③ GLNワンオフキーを取得する事業者は、GLNデータベースへGLN情報の登録が必要である。

- ④ 既に9桁または7桁のGS1事業者コードを取得、使用している事業者は、現在使用しているコードをGLNとしてもそのまま利用できる。コード体系の変更はない。

### 登録申請料および更新申請料の改定について

GS1事業者コードの登録申請料

および更新申請料は、1978年のコード登録業務開始以来、事業者の業態（製造業／非製造業）別、年間売上高別に決められた料金体系や金額を変えずに運用してきた。

しかし、業態化の進展など産業構造の変化により、業態の区別が分かりにくく時代にそぐわなくなってきた。今般、更新手続きの変更を機に、これまで40有余年にわたって維持してきた登録申請料および更新申請料を改定する。

#### <改定のポイント>

- ① GS1事業者コードなどの登録申請料および更新申請料は、事業者全体の年間売上高のみで決まる。現行制度の申請料算定区分（事業者の業態による区分）は廃止する。

- ② 年間売上高は、従来のランクを見直している。

- ③ 申請料の支払いは、3年払い、1年払いのいずれかを選択できる。

なお、3年払いを選択された場合も、1年ごとの登録情報確認<sup>(注4)</sup>は必要となる。

(注4) 登録情報確認では、代表者、住所、電話番号、担当者、GS1事業者コードの登録状況などの登録内容に変更がないか確認する。

標準タイプの各申請料、追加コード登録申請料、短縮タイプの各申請料、GTIN-8ワンオフキーの各申請料などの詳細については、ホームページで公開している。なお、GLNワンオフキーの各申請料については、確定次第公開するとしている。

### 登録事業者への個別のご案内について

GS1事業者コード登録事業者には、2020年9月以降、GS1事業者コードが更新時期を迎える1年程度前に、順次個別に書面で案内を開始している。

(コード管理部 上田)

# GS1 Japan Data Bank

— サービス開始から1年 登録アイテム数は右肩上がりで増加 —

GS1 Japan Data Bank (以下、GJDB) は、当財団が運営する商品情報データベースサービスで、有効なGS1事業者コードを貸与された事業者であれば誰でも利用することができる。GJDBに登録している事業者およびアイテム数は、日々増加しており、既に多くの方々にご利用いただいている。2020年10月でサービス開始から1年となったが、今回は、GJDBのこれまでの取り組みや登録状況について紹介する。

## GJDBのこれまでの取り組み状況

GJDBは、商品情報を登録することで、GTIN (JANコード) の設定や管理、バーコード (JANシンボル) の作成を簡単に行うことができるサービスからスタートした。また登録された商品情報は、当財団に関連する国内外のデータベース (JICFS/IFDB、GEPiR、GS1レジストリープラットフォームなど) に連携されるので、これらを通じて、広く商品情報をPRすることができるようになっている。

さらにGJDBでは、実際に多く

の事業者からの要望に応えるためさまざまな機能追加を行っている。エクセルを用いて一度に複数の商品情報を登録・更新できる機能をはじめ

め、商品の分類を入力する際の補助機能である分類キーワード検索機能や、有力な分類候補を表示する機能などが挙げられる。

図2 商品情報登録画面

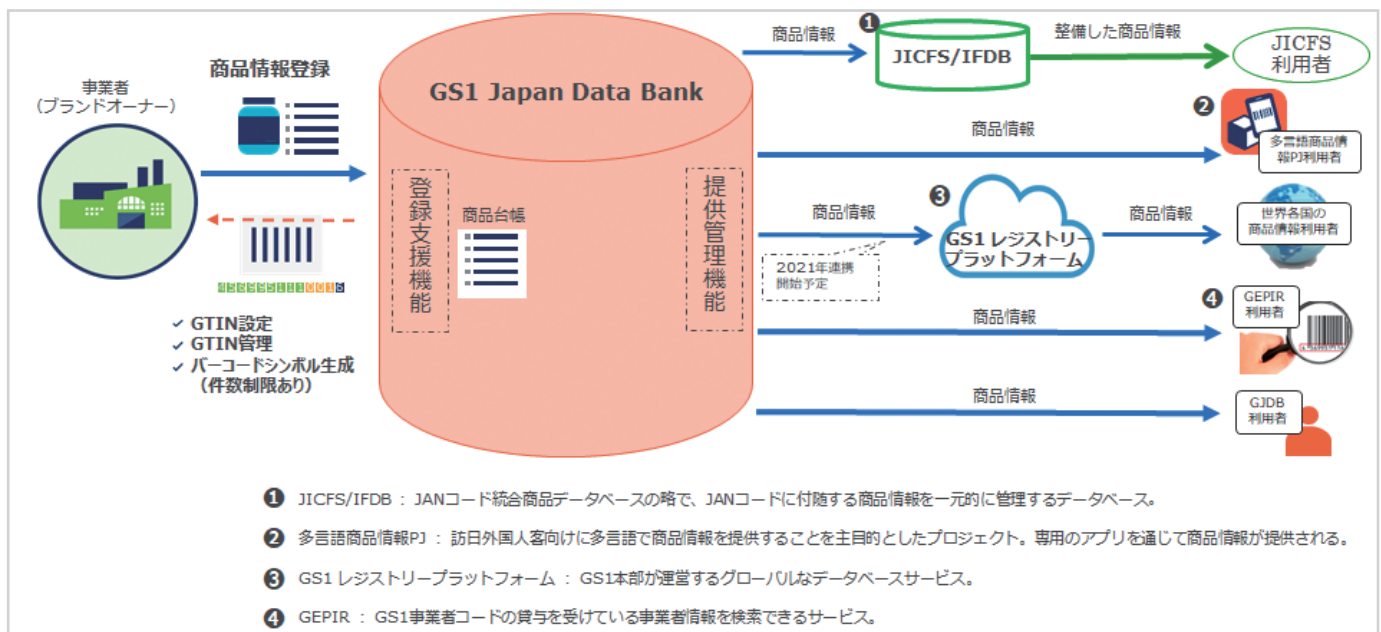


図1 GJDBの概要

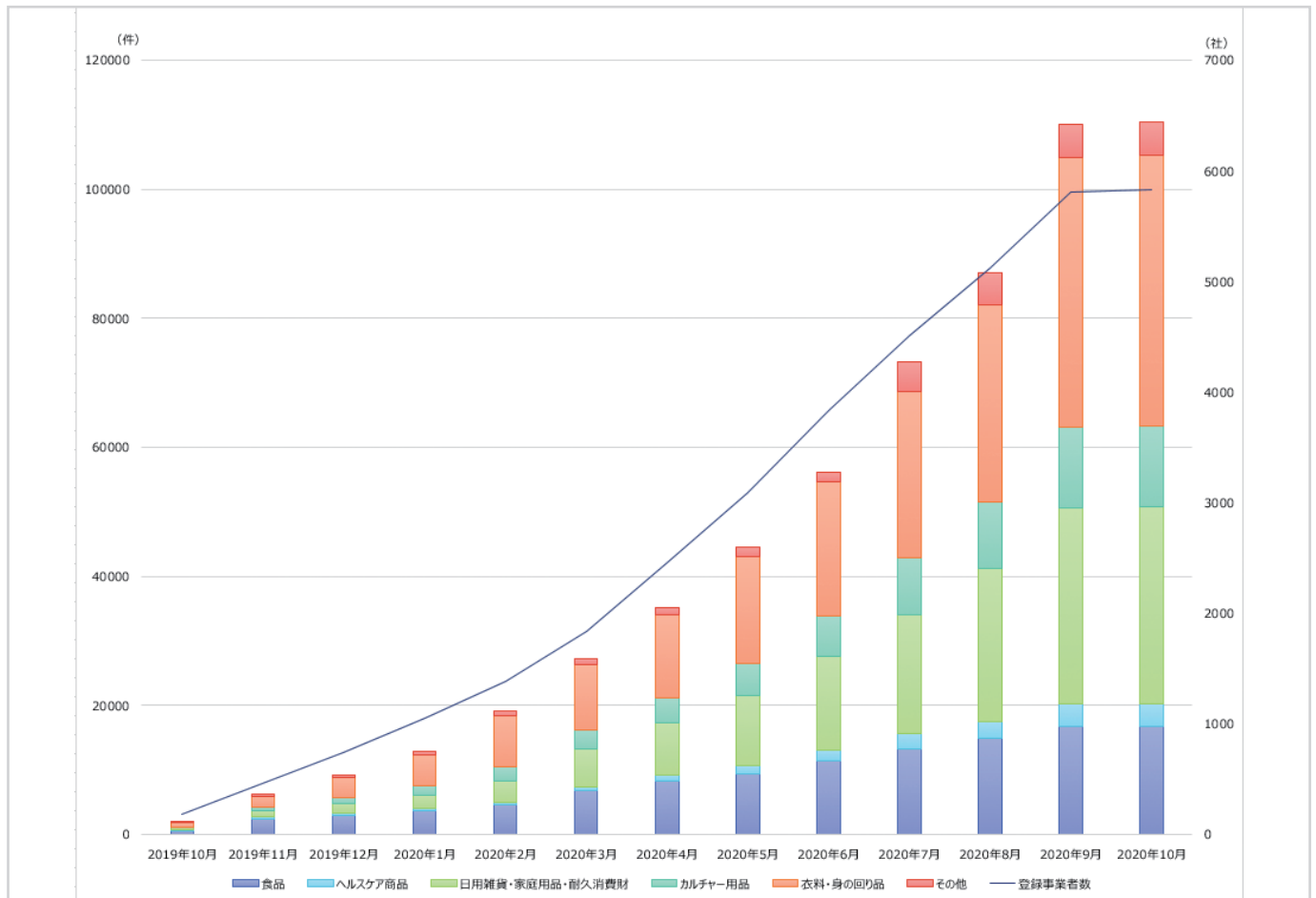


図3 カテゴリ別登録状況の推移

これに加え、商品情報利用機能も2020年6月にリリースした。ここでいう利用とは、卸売業や小売業といった事業者（GJDB利用者）が、GJDBの商品情報を閲覧し、業務に利用するようなものを想定している。商品情報利用機能は現在、お試しキャンペーン中で、有効なGS1事業者コードを貸与された事業者であれば、無料でご利用いただくことが可能である。お試しキャンペーンでは、1日に閲覧できる商品数や利用できる機能に制限があるが、キャンペーン終了後は、料金体系に従って閲覧できる商品情報や利用できる機能が増える仕組みを用意している。

### 現在の登録状況

これまでの登録状況の推移を図3に示す。登録数は右肩上がりで伸びており、2020年10月1日時点で、登録事業者数は約6000社、登録アイテム数は約11万件となってい

る。登録状況をカテゴリ別に見ると、「衣料・身の回り品」の登録が最も多いことが分かる。服、靴、アクセサリのようなサイズや色の違いによる商品の登録が多いことが主な要因と考えられる。次に登録の多かった「日用雑貨、家庭用品、耐久消費財」については、日用雑貨や化粧品といった商品が多い傾向があった。それに続いて「食品」、「カルチャー用品」、「ヘルスケア商品」の順に登録が多かった。このように、幅広い商品情報の登録があるが、中でも目を引いたのが、2020年3月以降、マスクなどの衛生用品の登録が増えたことである。新型コロナウイルスが大きな要因の一つとされているが、昨今の社会情勢が反映された形となっている。

### GJDBの今後

これまで、商品情報の登録を補助するため、さまざまな機能追加を行

ってきた。これにより商品情報やGTINの設定・管理の負担軽減に微力ながら貢献することができていると考えている。今後は、卸売業や小売業といった商品情報を利用する事業者も含め、流通に関わるさまざまな方々にGJDBをご活用いただけるよう、さらなる利便性の向上や普及活動に努めていきたい。

GJDBに興味のある方は、GS1 Japanのホームページを確認していただきたい。

GS1 Japan Data Bank (GJDB)の概要はこちら  
[https://www.dsri.jp/gjdb/about\\_gjdb.html](https://www.dsri.jp/gjdb/about_gjdb.html)

(データバンクビジネスG 高野)

# GS1 ヘルスケア国内外活動状況報告

## — GS1 Healthcare 設立 15 周年を迎えて —

GS1 Healthcare は、ヘルスケア分野における国際標準の開発と普及促進に取り組む、GS1 本部内のグループである。2005 年に設立され、2020 年で 15 周年を迎えた。

### GS1 Healthcare 15 年間の取り組み

2005 年 5 月、世界各地の 23 のヘルスケア関連企業・団体が集まり、患者安全の向上やサプライチェーンの効率化などについての議論がなされた。その結果、これらの実現に向けた国際標準の重要性が大いに認識され、ここから GS1 Healthcare User Group（後に GS1 Healthcare に改称）が誕生した。

設立以降、世界中から多くの医薬品・医療機器関連企業、医療機関、行政機関などの参画を得て活動しているが、その活動範囲は、設立当初の、医療分野に特化した GTIN 設定ルールやデータキャリアの制定などのルール開発から、各国の行政機関、規制当局と連携したシリアル化やトレーサビリティ強化への取り組み、さらには、WHO、GAVI（世界ワクチン免疫同盟）、UNICEF など

との協力によるワクチン供給のためのサプライチェーンの改善をはじめとした国際的なプロジェクトの推進にまで広がっている。

この間、世界各国で医療製品の識別体制の構築とバーコード表示が進められたことも相まって、医療製品へ GS1 標準を利用する動きが加速していった。また、医療機関では、受発注や薬剤のピッキングの際の製品識別の他、院内の資産管理や患者の識別など、より多様な場面で GS1 標準が活用されるようになってきている。

### コロナ禍でも積極的な国際連携を

GS1 Healthcare では、年に 2 回 GS1 ヘルスケア国際会議を開催している。各国の GS1 加盟組織や医療関係者が一堂に会して、GS1 標準を活用する先進的な事例や、各国の規制動向について報告する重要な場となっているが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、残念ながら 2020 年度予定されていた会場での開催は 2021 年度へ延期された。しかしその代わりとして、2020 年 11 月 17 日から 3 日間、オ

ンラインサミットが開催され、世界各地から計 30 名の講演者を招き、六つのテーマ別のセッションが行われた。一堂に会しての会議が困難な中、このように Web を用いた情報共有により注力しており、他にも、GS1 標準の先進的な活用事例を紹介するウェビナーの開催や、GS1 を活用する医療機関や各国の規制情報を集めた各種データベースの更新、広報ビデオの制作などに随時取り組んでいる。

### 日本国内での活動状況

GS1 加盟組織のうち日本を含む 40 の国と地域では、GS1 Healthcare の支部組織を設置している。日本では 2009 年に GS1 ヘルスケアジャパン協議会が設立され、日本の医療業界における GS1 標準の普及に向け活動している。

国内においても依然として、これまでのような対面での活動は制限せざるを得ない状況ではあるが、その分オンラインを活用した情報共有、イベントやサービスの企画に力を入れている。毎年 3 月に恒例となっているオープンセミナーも、2019 年度は中止となったが、2020 年度は Web 併用で開催すべく、現在詳細を計画中である。また、協議会会員向けにも、ヘルスケア分野におけるバーコードの利用方法を解説するウェビナーの開催や、メールマガジンの配信など、新たな試みを行っている。新しい生活様式の実践が求められる中、これまでのやり方にとらわれない活動方法を模索しながら、今後も継続的な普及活動に取り組んでいきたい。

（ヘルスケア業界グループ）

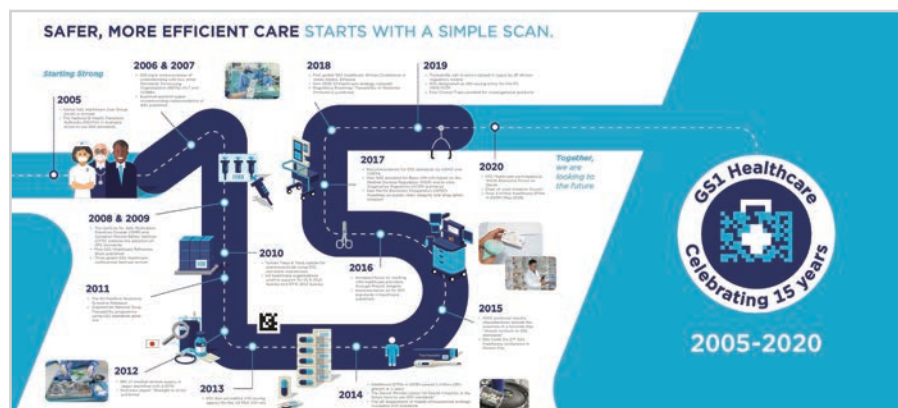


図 15 周年を記念して作成されたインフォグラフィック

15 周年を記念して、GS1 本部の Web サイトに特設ページが設けられ、パンフレットやアニメーションを用いてこれまでの活動や今後の展望が紹介されている。

<https://www.gs1.org/>

# ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドラインを発行

ー フードディストリビューション 2020 で PR ー

## 効率化が求められる日付確認作業

一般消費財の分野では、流通の際に商品情報のきめ細かい管理が求められている。例えば加工食品の流通では、サプライチェーン上の各場面において賞味期限、消費期限が重要な管理項目となっている。

ケース単位の商品確認は、ITF シンボル等の読取りで行われるが、日付情報の確認・記録は人手による部分が多い。多くの場合、段ボールケース上の賞味期限等の文字を目視確認し、手入力してシステムに取り込む。日付の表し方やフォント・サイズ等も統一されていないため、作業負荷が大きく、入力ミスを防ぐことも難しい。以前から標準化、効率化が望まれてきた。

日付表示の標準化については、製・配・販運携協議会にて文字印字の大まかな目安は取りまとめられていたが、バーコード表示については当財団で検討することになっていった。そこで当財団は、メーカー、卸・小売業の協力を得て検討を行い、2020年9月に「ケース単位への日付情報等のバーコード表示ガイドライン」を発行した。

## 本ガイドラインのポイント

本ガイドラインの対象は、段ボールケース等、同じ商品が複数個入った一般消費財の集合包装である。

バーコードのデータ項目は、①商品識別コード (GTIN)、②製造日、③賞味期限・消費期限等の期限情報、④ロット番号である。加工食品や飲料等、期限管理が特に重要となる商品カテゴリを念頭に整理したが、日用品や雑貨等にも応用可能である。

バーコードの種類としては、国際

標準との整合性から、GS1 QRコードとGS1-128シンボルの二つを推奨している。ただし、表示スペースの小ささや誤り訂正機能、汚れに強い点などから、国内では二次元シンボルのGS1 QRコードへの期待が高い。

表示位置は、既存のITFシンボルの左右いずれか近い位置への表示とし、それが難しい場合はITFシンボルの上側に配置する(図)。

本ガイドラインは、当財団のWebサイト (<https://www.dsri.jp/standard/2d-symbol/gs1-qr.html/carton/>) からダウンロード可能なのでご利用いただきたい。

集合包装に日付情報等のバーコードが表示されることで、卸売業や小売業の物流センターにおける期限情報の確認・記録が、バーコード読取りで可能になる。作業時間が削減されると同時に、情報はより正確になり、先入れ先出しの管理をさらに徹底できるようになる。またメーカーは、パレタイジングや一時保管場所等への商品移動時の日付・ロットの確認をバーコード読取りによって行うことが可能になり、確認作業の効率化と管理精度の向上が期待できる。

## フードディストリビューション 2020 にて PR 開始

2020年10月7日から9日に開催されたフードディストリビューション2020にて、本ガイドラインのPR活動を開始した(写真)。

関連業界の対面形式の展示会としては、新型コロナウイルスの感染拡



図 GS1 QRコードの印字イメージ

大以降、初めてであり、さまざまな感染防止対策が講じられた。それでも例年に比べ全体の来場者は少なかったが、当財団のブースには2019年の倍以上の訪問があった。賞味期限の確認作業や物流業務の効率化を課題とする事業者からの問い合わせ、相談も多く、ガイドラインへの高い関心と期待が寄せられた。



展示ブースの様子

多くの企業、事業者が共通の形でバーコード表示し、読取り活用できるようになることが、業界全体での物流関連の効率化実現には重要である。そのためにも、ぜひ、ガイドラインを活用いただきたい。PR活動を継続して行っていくが、説明会など要望があれば、気軽に相談いただきたい。

(グロサリー業界グループ)



**流通BMS協議会**  
(流通システム標準普及推進協議会)

- ・2023年10月から導入される適格請求書等保存方式(インボイス制度)では、課税事業者が発行する適格請求書等に登録番号が必要になります。
- ・流通BMSの各種メッセージへのデータ項目の追加を現在検討中です。

適格請求書を交付するための登録については、以下国税庁の案内をご覧ください。



事業者の  
みなさまへ

令和5年10月1日から

消費税の仕入税額控除の方式として

**「適格請求書等保存方式」**

(いわゆるインボイス制度)が導入されます。

**適格請求書を交付するためには登録が必要です!**  
(インボイス)※

【登録申請受付開始:令和3年10月1日~】



登録申請は、**e-Tax**をご利用いただくと  
手続きがスムーズです。

※適格請求書とは、登録番号のほか、一定の事項が記載された請求書や納品書その他これらに類するものをいいます。

インボイス制度について

◆お問合せ先 消費税軽減税率【フリーダイヤル】0120-205-553  
電話相談センター【受付時間】9:00~17:00(土日祝除く)

詳しくお知りになりたい方は

国税庁ホームページ(<https://www.nta.go.jp>)の  
「インボイス制度特設サイト」をご覧ください。

特設サイトへ



流通BMSの  
お問い合わせ

流通BMS協議会 事務局  
GS1 Japan (一般財団法人流通システム開発センター)  
E [ryutsu-bms@gs1jp.org](mailto:ryutsu-bms@gs1jp.org)  
<https://www.dsri.jp/ryutsu-bms>

[www.dsri.jp](http://www.dsri.jp)

BMS-2020a  
11 2020